都市景観設計マニュアルチェック表　　　大規模造成編

■周辺になじむ造成に関する事項

（１）将来の土地利用やまちなみのイメージの理解

□周辺地域の現状と将来像を把握している

□将来の土地利用を調査している

□周辺状況を考慮した整備計画を立てている

□計画している建築物などの配置やデザインを検討している

□その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

（２）周辺と調和する地域の景観づくりへの配慮

□地域の歴史的、文化的遺産に配慮している

□既存の地形を活用した造成を計画している

□まわりと調和する建築物のデザインに配慮している

□その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

（３）周辺と調和する緑の景観づくりへの配慮

□既存の樹木、樹林などを保全・活用している

□地域の植生を考慮した緑化計画を立てている

□シンボルツリーや生垣などによって緑豊かな景観づくりに努めている

□周辺の緑との連続性が生まれるよう配慮している

□周辺地域と調和するよう緩衝緑地を確保している

□その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

（４）うるおいを与えるための水辺空間の創出への配慮

□既存の水路、水面などを活用している

□緑を含めた生態系に配慮した場の保全に努めている

□噴水や水場などの水辺空間の創出に努めている

□その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

（５）歩行者に配慮した空間づくりへの配慮

□敷地全体に歩行者空間のネットワークをつくっている

□広場などのオープンスペースの創出に努めている

□建築物と道や広場との連続性に配慮している

□水と緑が一体となったゆとりある歩行者空間づくりに努めている

□高齢者や障害者も安心して歩ける空間づくりに努めている

□その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

（６）擁壁などの圧迫感をなくすための工夫

□擁壁の素材に自然石等を使い、まわりになじむよう工夫している

□擁壁を植栽で隠すなど、まわりになじむよう工夫している

□擁壁と敷地の造成を一体的に計画している

□その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

（７）駐車場などを周辺になじむための工夫

□敷地全体の計画と一体的な配置を考えている

□駐車場が大規模なものとならないように分散して配置している

□地形の起伏や既存樹木を活用している

□周辺を植栽するなどまわりになじむように工夫している

□その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

（８）夜間における快適さをつくり出すための工夫

□敷地全体の照明計画を立てている

□まちに個性を与えるような照明を考えている

□その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）